【50】交通事故死者減少半世紀の闘い

新年早々警察庁から発表された昨２０２４年の道路交通事故の死者数は、前年の２０２３年と殆んど変わらぬ２６６３人でした。
近年、交通事故死者数が減少してきていることは、承知しているつもりでしたが、まさか２千人台まで減っていたとは想像していなかったので、本当に驚きました。

敗戦後の昭和２５年（１９５０）の数字では、わが国の自動車の保有数は二輪車、三輪車まで含めてもわずか３８万台にすぎなかったのが、その後の経済の復興と発展により、１０年後の昭和３５年（１９６０）には、未だ多かった二輪、三輪の車を含めて６１８万台と激増しました。
それとともに交通事故も増え、死者数は１２０５５人と初めて１万人の大台を超えました。

その増加の勢いは停まらず、さらに１０年後の昭和４５年（１９７０）には保有数は２６２５万台と４倍に、乗用車、バス、トラックなど四輪以上の車は１０年前の１２９万台が１７２５万台と実に１３倍にも伸び、 ”モータリゼーション時代”が到来したのです。

当然のこと、交通事故数は４５万件から７２万件へ、死者数は１２０５５人から１６７６５人へと大巾に増加し、大きな社会問題となり、 ”交通戦争” が始まったと云われたものです。
１６７６５人という死者数は、わが国の交通事故の歴史において最多のものですが、このほとんど半世紀前の数字が、私の頭に刻み込まれていたので、死者２千人台といわれてすぐには信じられなかったのです。
改めて１９７０年と一昨年２０２３年の約半世紀の変化を比較すると、

年	自動車保有数	交通事故数	死者数	車一万台当たり死者
１９７０	１８５９万台	７１８千件	１６７６５人	９．０人
２０２３	８３０５万台	３０８千件	２６７８人	０．３人
比率	４．５	０．４	０．１６	０．０３

一口にいうと、この半世紀でクルマの台数は３倍に増えたのに、事故数は６割減、死者数は８割減、クルマ１万台当たりの死者は1／３０にまで減らせたのです。
この大きな成功を収め得た理由は、
（１） 道路の整備・改良
（２） 防護柵（ガードレール)、信号、道路照明等交通安全施設の拡充
（３） 事故関係法の厳罰化と交通警察の取締り強化
（４） 車体の強化、オートマチック化、シートベルト装備等自動車の安全性能の向上
（５） 運転者の技術とマナーの向上、人々の交通安全への関心の高まり、児童の交通安全教育等、人の

側の意識改善

など、社会全体が総力を挙げて取り組んだことによります。

しかしながら、死者数は２０２０年に３千人を切ってから、昨年２０２４年までの５年間にわたり横這いで減少せず、現行の交通安全基本計画（２０２１―２０２５）の目標である死者２千人以下を達成できそうにありません。

被害者、運転者いずれの側にも高齢化が進んでいることも大きな理由のようですが、電気自動車の普及、自動運転の導入、インフラ側では歩道の拡幅や無電柱化があり、道路交通をめぐる条件や環境が、今後大きく変化することが予想され、事故を何処まで減少出来るのか予想しにくい状況です。